

科目名		耳鼻咽喉科・頭頸部外科学実習	
科目責任者	鈴木 秀 明	(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授)	
担当者	若 杉 哲 郎	(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 准教授)	
担当者	大久保 淳 一	(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 講師)	
開講時期:	2～4年次	単位数:	6 単位
		時間数:	90分× 90 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>頭頸部領域の諸器官(聴器、平衡器、鼻副鼻腔、口腔、咽頭、喉頭、耳下腺、唾液腺、顔面神経)の機能や病態を解明するための臨床的および実験的手法を用いて調べ、機能と病態の本体や機序を明らかにする。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 聴器の構造と機能を、臨床的・実験的手法によって明らかにする。 2) 聴覚障害を起こす疾患の病態を、臨床的・実験的手法によって明らかにする。 3) 平衡器の構造と機能を、臨床的・実験的手法によって明らかにする。 4) 平衡障害を起こす疾患の病態を、臨床的・実験的手法によって明らかにする。 5) 鼻・副鼻腔の構造と機能を、臨床的・実験的手法によって明らかにする。 6) 鼻・副鼻腔疾患の病態を、臨床的・実験的手法によって明らかにする。 7) 口腔・咽頭の構造と機能を、臨床的・実験的手法によって明らかにする。 8) 口腔・咽頭疾患の病態を、臨床的・実験的手法によって明らかにする。 9) 喉頭の構造と機能を、臨床的・実験的手法によって明らかにする。 10) 喉頭疾患の病態を、臨床的・実験的手法によって明らかにする。 11) 唾液腺・甲状腺の構造と機能を、臨床的・実験的手法によって明らかにする。 12) 唾液腺・甲状腺疾患の病態を、臨床的・実験的手法によって明らかにする。 13) 頭頸部腫瘍の病態を、臨床的・実験的手法によって明らかにする。 14) 顔面神経疾患の病態を、臨床的・実験的手法によって明らかにする。 			
● 評価方法	プレゼンテーション内容40%、討議への参加度20%、課題レポート40%等で総合評価する。		
● 参考文献	実習の中で必要に応じ紹介する。		